

別紙参考様式 2

令和 7 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立三永小学校

学校長名 若 狭 弘 子

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的に学び続ける児童を育成する算数科授業の創造
～他者との関わり合いと振り返りに焦点を当てて～

(2) 主題設定の理由

本校では，学校教育目標「お互いを大切にし，主体的に学び続ける児童の育成」の実現を図るため，昨年度，「自律した学び手を育てる授業の創造～児童の動機付けを高め，学力形成につながる効果的な指導の在り方～」を研究主題とし，研修を進めてきた。「自己調整力」をキーワードとし，自己調整力を高めるための「自己調整学習」の具体として「見通す」「取り組む」「振り返る」という学びのサイクルを，児童自ら回せるような指導の工夫を行ってきた。昨年度は，学習課題との出会わせ方を工夫したことで，学習の動機付けを高めることができ，児童が学習への「見通し」をもって取り組むことができた。

本校のこれまでの取り組みから，「自律した学び手」として，児童が自己調整力を働かせ，学習方法を選び，決め，実行するに至るには，「他者と協働する過程」「学びの状況を意図的に振り返らせる場の設定」が不可欠であることが明らかとなってきたものの，それらを「意図的に」仕組むことができなかったことが課題として挙げられる。

そのため，本年度は，「他者との関わり合い」と「振り返り」をキーワードに研修を進めていく。「お互いを大切にし，主体的に学び続ける児童の姿」とはどのような姿なのか，そのような姿を引き出すために，授業においては，どのような「関わり合い」「振り返り」を仕組んでいけばよいか，職員同士の対話を重ね，日々の授業を改善していきたい。

昨年度は，教科や領域を絞らず個人研究テーマを設定したが，本年度は正答率 40%未満の児童の割合が多かった「算数科」を中心に，低・高・特別支援の 3つのブロックに分かれて研修を進めていく。「他者に関わり合う場」「学びを振り返る場」を意図的に設定し，それらに

よって学びが深まるような授業展開にしていくためには、教材研究が不可欠である。教材研究の中で、単元で働かせたい「数学的な見方・考え方」を明らかにし、効果的な「他者との関わり合う場」「学びを振り返る場」について検討していく。

(3) 研究仮説

算数科の授業において、各単元で働かせたい「数学的な見方・考え方」を明らかにした教材研究を行い、他者と関わり合いながら、自分の学びを振り返ることのできる授業づくりを行うならば、学びが深まる授業となり、児童に主体的に学習に取り組む態度を育むことができるであろう。

(4) 研究内容

「主体的に学び続ける児童を育成する算数科授業の創造」を目標に、課題をもって研究を進める。

① 学年・学級の児童の実態に応じた研究

- ・ 低学年, 高学年, 特別支援の3つのブロックに分かれて教材研究を行い, 学習指導要領解説, 教科書を読むことを通して, 「数学的な見方・考え方」を明らかにし, 学習指導案を作成する。
- ・ 本時案において, 意図的に設定した「他者に関わり合う場」「学びを振り返る場」を明示する。
- ・ オープンクラスルームを行い, 教職員同士で授業を見合い, 学び合う機会を設ける。

② 教職員の主体的な学びにつながる校内研修の在り方

- ・ 学校教育目標「お互いを大切にし, 主体的に学び続ける児童」の具現化
- ・ 子供を主語にする協議会

(5) 検証の方法及び指標

A) 児童の学力調査の分析

12月の学力調査において, 経年比較をする。

＜全国平均値以上＞

B) 児童の意識調査の分析

6月と12月の意識調査を比較し, その結果を分析する。

＜肯定的評価の割合 80%以上＞

2 検証計画

(1) 学力調査の実施と分析 (12 月)
(2) 児童の意識調査の実施と分析 (6 月, 12 月)

3 校内研修計画

4 月	・前年度の研究の成果と課題分析 ・研修組織づくり ・研究の年間計画案づくり
5 月	・研究方法の確認 ・研究の理論構築
6 月 7 月 8 月	・意識調査の実施及び分析 ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討
9 月 10 月 11 月 12 月	・授業実践 ・学力調査の実施及び分析 ・意識調査の実施及び分析 ・研究の成果と課題の分析
1 月 2 月 3 月	・研究紀要の作成 ・研究の課題整理 ・次年度の方向性の確認

4 研究公開の予定について

なし